

科目名	社会統計学			ナンバリング	soc252	授業形態	講義
対象学年	3	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	高木竜輔	担当教員					

授業の概要	この授業では、統計ソフト(SPSS)を用いた統計データの加工・分析の方法について演習形式で学習する。自らが収集したデータまたは二次分析データを分析する際、単に統計ソフトが使えるだけでなく、データをどのように加工・分析し、それを用いて知見・考察を導き出すのかが求められている。そのための方法の習得を目標とする。						
到達目標	1. 量的データを分析する上で必要な基本的な用語を理解することができる。 2. 量的データについて、統計ソフトを用いて分析することができる。 3. 自らの問題関心に基づいて質問紙調査のデータを分析し、簡単な報告書を作成することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	各授業において、教科書の関連する箇所を事前に読んでおくこと。授業終了後は配付資料をもう一度読み、授業を振り返ってポイントを整理しておくこと。学習センターにあるパソコンを使ってSPSSの方法を復習すること。						
ディプロマポリシーとの関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
		1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 統計データ処理における基本的な考え方・進め方を理解することができる。 2. 統計データを分析する上でその方法について理解することができる。 3. 統計データに基づいて報告書を書くことができる。	1. 統計データ処理における基本的な考え方・進め方を理解し、実際の統計データに基づいて執筆された論文で使用された方法を批判的に検討することができる。 2. 統計データを分析する上でその方法について理解することができ、実際にそれを分析において使用することができる。 3. 統計データに基づいて論文を執筆することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
学期末レポート	○	○	○		○		
授業内課題	○	○			○		
授業題土・授業への参加			○	○			
出席			○	○			加点はしない。欠席は減点となる。

課題、評価のフィードバック	1. 学期期間に8～9の課題を課す。添削して返却する。再課題を課すこともある。 2. 学期末サポートを課す。添削し、返却する。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	イントロダクション	講義の進め方、受講に際しての注意点について理解できる。授業支援システムの使い方について理解できる。	
	第2回	社会統計学の基礎	社会統計学を理解する上で必要な前提となる知識を習得できる。	
	第3回	統計ソフトの使い方	統計ソフト(SPSS)の使い方について理解できる。	
	第4回	一変数の分析(1)	離散変数の単純集計表の作成方法について理解し、その上で結果と考察をまとめることができるようになる。	
	第5回	一変数の分析(2)	連続変数の単純集計表の作成方法について理解し、その上で結果と考察をまとめることができるようになる。	
	第6回	二変数の分析(1)	クロス集計表を作成した上で、そのデータの読み方とまとめ方について記述できるようになる。	
	第7回	二変数の分析(2)	平均値の比較を算出し、そのデータの読み方とまとめ方について記述できるようになる。	
	第8回	二変数の分析(3)	相関係数を算出し、そのデータの読み方とまとめ方について記述できるようになる。	
	第9回	記述統計と推定統計	記述統計と推定統計の違いについて、推定統計を理解するために必要な確率の考え方について理解しする。	
	第10回	平均値を推定する―区間推定	正規分布や中心極限定理を用いて、母集団における平均値を推定できる。	
	第11回	クロス表の結果を検定する	カイニ乗検定の計算方法について、統計ソフトを用いて算出し、その意味を理解できるようになる。	
	第12回	平均値の差を検定する	t検定とF検定の違いを理解し、平均値の差の検定をおこなうことができる。	
	第13回	多変量解析(1)	多変量解析の考え方、計算方法について理解できる。	
	第14回	多変量解析(2)	因子分析の考え方、計算方法について理解・実践できる。	
	第15回	まとめ	これまで学習してきた分析手法を用いて二次分析データを実際に分析し、報告書にまとめることができる。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		基本的に講義をし、それに対する質疑応答をおこなう。質問紙調査に関する技術を身につけてもらうため、授業に関連する授業内課題を8～9つ程度出す。		
授業外学習の指示		事前にmanabaにてシラバスを提示するので、それをみて分からない用語、内容を確認しておくこと。配付資料を中心に授業の復習をおこない、場合によっては参考資料などを読むこと。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	岩井紀子・保田時男著, 2007, 『調査データ分析の基礎』有斐閣(2,800円＋税)。
参考書	
参考URLなど	
その他	